

理 事 長 所 信

2017年度（第67年度）
公益社団法人名古屋青年会議所



第67代 理事長
大和 直樹

公益社団法人名古屋青年会議所

第67年度 理事長所信

公益社団法人名古屋青年会議所

第67代理事長 大和 直樹

未来は勇者のものである

変化や困難を恐れず さらなる一步を踏み出し

その先にある新たな価値観を創造しよう。

今という時代は、過去の勇気ある者たちによって創造されてきた。

人々はそこにはない何かに挑戦し、新たなものを手に入れ、今日の世を創造してきた。彼らの心の支えになったのは、確固たる信念であり崇高なる志である。そして、失敗を恐れず果敢に挑戦し続け、臆病な者には決して手に入れられないものを手に入れることができたのだ。

——今の日本の若い人に、一番足りないのは勇気だ。

「そういう事を言ったら損する」って事ばかり考えている。

かつて白洲次郎はそう語って、日本の再建を担っていくべき若者たちに警鐘を鳴らした。

信念を持ち志を抱くことは、大切なことだが容易なことではない。そして、それを貫くことはさらに難しい。だが、そういう生き方をせずして本当に生きていると言えるのだろうか。満足した人生だったと振り返ることができるのだろうか。

我々の使命、それは青年会議所発足当時から変わらず「明るい豊かな社会」を創造していくことである。時代の移り変わりと共に、人の価値観や幸福観も変わってきたが、信念や志を持って行動することが勇気の源泉であり、社会を前進させ、充実した人生につながることは永遠の真理である。

あなたにとって青年会議所の価値とは何か。

青年会議所はあなたに何をもちたらしめてくれるのか。

あなたにとって未知の世界を切り拓く、そんな勇気ある行動によって、名古屋のまち、人と共感、共創し、新たな価値観を生み出していこう。

今一度言う、未来は勇者のものである。

【名古屋のまちを愛する】

私たちの住まうまち名古屋は、日本のほぼ中央に位置し、東西交通の結節点にある。

自動車のみならず航空機、精密機器、工作機械、ファインセラミックス等、多くの産業が集積するこの地は、日本のものづくり産業の中核をなし、わが国の経済のけん引役でもある。教育機関の充実ぶりも特筆すべきものがあり、優秀な研究者を擁してノーベル賞受賞者を輩出しており、学生もその多くが域外から集まっている。

三英傑をはじめとする武将ゆかりの歴史文化、伝統工芸、食文化等、独特の文化が名古屋には存在する。今後は、リニア中央新幹線開通を見越した名古屋駅周辺の再開発、日本初のレゴランド建設など、ハード面の充実が期待される。それに加え、芸どころ名古屋の象徴とも言える御園座の営業再開や、ロボカップ世界大会をはじめとした国際イベントの開催など、ソフト面の充実にも期待できる。まさに、交通・産業・文化の中心たる名古屋には、日本国内のみならず、海外からも多くの人を訪れることになるであろう。

しかし、人口約230万人を有する屈指の大都市でありながら、「名古屋の良いところは何か」と問われても、名古屋人からはすぐには答えが出てこない。良いまちだと理解していながらである。

名古屋人ですら即答ができないのだ。他地域の人であればなおさらだ。名古屋といえ

名古屋グルメのことしか頭に浮かんでこないのが現状であろう。

こんなにも生活しやすく、経済環境にも恵まれ、歴史と未来が響き合うこのまちを愛すればこそ、ローカルを大切にし、それをグローバルに昇華する、「グローバル」な名古屋の可能性を発掘していきたい。

ものづくりの中心地として、創造力に長けたこの地域であるからこそできることがある。愛すべきこの名古屋のまちの輝かしい未来を創造するという信念を持って、勇気ある行動に移し、日本における名古屋の存在、ひいては世界における名古屋の存在を再定義していきたいと考える。

「存在する」とは「認識される」ことである。

【名古屋発 世界につながる新たな価値観】

我が国では、伝統文化、和食等の海外への売り込みやクール・ジャパンと言われるポップカルチャーやメディアコンテンツ輸出等の取り組みがなされている。世界には日本の文化や創造力に対する評価と共感があり、しかもその矛先が多様化していることは現在の日本にとって追い風であることは間違いない。果たしてそれは、工芸品の美しさやコンテンツの面白さを追求したものであるのだろうか。

日本人には「相手のために動く」という美德が古来備わっている。日本の伝統工芸品には作り手の、使う人がより便利になるように、生活がより良くなるようにという想いが込められている。東日本大震災の時に世界の共感を集めたのも、「相手のために動く」という価値観、無私の心がそこにあったからである。

であるならば、高齢化社会やコミュニティの喪失、環境・エネルギー問題等、世界中の国がこれから経験すると言われている課題についても、相手を慮る心と、その類まれなる創造力を用いて解決へと導き、新たな価値観を創造することができるのではないだろうか。

いち早く成熟期を迎えた国家、都市として、成熟期にふさわしい新たな価値観に基づく、暮らしを豊かにするものづくりを世界に発信しなければならない。大都市でありながら一般に住みやすいと言われ、多くの市民がそれを実感している名古屋は、ものづくりという

産業と市民が満足するに足る生活の質が調和したまちであり、成熟期におけるモデル都市として、QOL（生活の質）の発信に最適な地域である。

日本のものづくりの中心地と言われる名古屋、言い換えれば創造力に富んだ地域とも言えよう。名古屋から世界の課題を考え、新たな価値観を持って解決へと導く。そのことが、世界に役立つ名古屋を実現すること、そしてパブリックイメージの向上につながるのではないだろうか。

【「名古屋」から「NAGOYA」へ】

名古屋青年会議所は、マニラJ C、九龍J C、台北女子J Cと姉妹J Cを締結しており、第65年度にはハワイカイJ Cがそこに加わった。初めてアジア以外の地域が姉妹J Cに加わったわけであるが、今後それをどう活かしていくのか、また違った文化を持つ彼らとの交流を積極的に図っていくことは、グローバルな視野を養い、価値観を変える素晴らしい成長の機会だと思う。まずは、そのネットワークを活かして新たな価値観の発見に取り組んでいきたい。

さらに、世界会議誘致に向けた運動方針が第66年度の4月臨時総会で審議可決されたわけだが、それが実現されれば国内外から多くのJAYCEEがこの名古屋の地を訪れることは間違いない。今後、名古屋の地においてMICEの誘致に拍車がかかるだろう。そして、それらを開催する意義は大いにあると思う。

国際的な催しに対しては自治体も大いに期待している。名古屋青年会議所が培ってきた自治体や諸団体との関係を活かしつつ、「新たな価値観を生み出すまち名古屋」の創造を目指していきたい。

【歴史を学び、次代へつなぐ】

今、世界秩序は再び大きな混沌へと向かいはじめている。北朝鮮事情、イスラム国の台

頭、ロシアの紛争介入、東南アジア諸国と中国との対立の先鋭化等、国際問題は山積している。日韓の慰安婦問題にいたっては政治的合意によって日韓関係修復の兆しが見られたものの、少女像の撤去に対し問題は再燃し、韓国メディアもそれを後押ししている。

今の子供たちが大人になる頃には、世界はもっと身近な存在になる。その前に我々が、この複雑化している世界情勢にどう向き合うかを考えていかねばならない。

そのためには、まずは私たちが住まうまち名古屋、そして日本の歴史・文化についてよく知り、次に相手の国の歴史・文化も理解する。さらには海外の人からの日本・名古屋に対する認識も理解する必要があると考える。

相互理解こそが国際摩擦を予防する最良の処方箋と考えるからだ。

【持続可能な平和への価値観を創造する】

未来を生きる私たちにとって忘れてはいけない事項がもう一つある。それは戦争の記憶である。いつの日か、戦争体験者の声を聞くことができなくなる時代がやってくるのだ。

2016年5月27日、米国のオバマ大統領が71年前という、それほど遠くない過去の記憶を辿りに広島を訪れた。米大統領に原爆投下の事実と向き合うよう求めてきた被爆者にとっては、長年の願いがかなう歴史的訪問となった。

我々が住まう日本のすぐ近くに核保有国が存在し、世界各地において未だ紛争やテロが起きている。我々は未来の平和のあり方について考えることをやめてはならない。平和という絶対的な価値観を示していかなければならない。

今はまだ、我々の祖父母世代が戦争の語り部として存在してくれている。私の祖父は終戦の前日に特攻隊に志願し、父は焼夷弾によって家屋の下敷きになる寸前に助けられた体験をしている。もしかしたら私はこの世に存在しなかったかもしれない。

今後50年後、100年後も同じように歴史的事実に対して向き合うことができるのだろうか。そんな思いを込めて、近隣諸国との関係性を含め、持続可能な平和への価値観を共有できる、そんな取り組みを行っていききたい。

【安心・安全に暮らせるまち】

東日本大震災発災から5年が過ぎ、2016年4月には熊本地震が発災し、またもや日本中を天災による恐怖が襲った。東北ほどの被害はなかったと言われるが、被災者のことを思うと胸が痛む。今後心配されるのは被災者のPTSD（心的外傷後ストレス障害）であるとも言われている。

私たちが住まうこの地域も南海トラフ大地震が潜んでいるが、これらの教訓を忘れてはいけない。大切な人を守り、職場や地域を守るために何ができるのか。自然の脅威に対して、人の力がどれだけ及ぶか分からないが、私たちには知恵があり、人のつながりがある。

近年、名古屋青年会議所でも様々な取り組みがなされてきた。それらを有効に活用しながら、有事の際に地域のリーダーとして率先して行動できるように、助ける側としての知識の取得、また社会福祉協議会をはじめとする地域に生活する住民と地域にある住民組織、ボランティア団体、社会福祉施設との連携を強化することも進めていきたい。

また、災害は天災だけには限らない。名古屋は深刻な人災にさらされていることを我々は忘れてはならない。

愛知県は交通事故死亡者数が2015年までにおいて、13年連続全国ワーストワンである。そんな不名誉な問題を見て見ぬ振りにはできない。「名古屋走り」と言われる危険運転や、自動車保有台数の多さも関係しているだろうが、子供や高齢者のような交通弱者を守るための打開策を打ち出していこう。

【経済人としてどう生きるか】

アベノミクスが停滞し、業種にもよるが実体経済にはなかなかその恩恵を感じる事ができなかったという意見も少なくない。今後の具体的な打開策も打ち出されていないまま、為替も円高に推移し、諸外国との問題も先送りにされている。中国経済の成長も終焉を迎え、英国のEU離脱の影響はこれから本格化してくることだろう。

高度成長期を支えてきた巨大企業の不祥事、あるいは経営難により外資企業に買収されるといった話題も多い。

名古屋経済を見ると、先述した通りの名古屋駅前の再開発や、新たな観光資源の開発、日本を代表するトヨタ自動車を中心としたものづくりの伝統と、良いニュースばかりであるが、果たして名古屋経済はこのまま安心していて本当に大丈夫なのだろうか。

名駅エリア一極集中化が進み、大企業のオフィス移転、飲食店等も移動するために今までオフィス街、繁華街であった丸の内・栄エリアの衰退も懸念される。またトヨタ自動車への依存も懸念材料だ。

私たちのリアルな実体経済との関わりを理解されないまま、大きな経済の潮流に飲まれて会社がなくなる。そんな可能性も充分にあり得る。

これからの経済変動の大きな波に翻弄されることなく、生き残りの知恵に長けた名古屋であり続けるように、知恵を集め、経済的にも強いまちの構築を目指していきたい。

【新たな産学官連携プラットフォーム】

平成26年度の経済センサスによると市内約86,000企業、約125,000事業所のうち、そのほとんどが中小企業である。

ところが、名古屋市からの中小企業への経営支援や観光客の誘致等にかかる経費は約915億円と非常に多くの予算額が割かれているものの、その多くは有効に使われておらず、本当に中小企業が求めるものとマッチングされているのかいささか疑問である。

女性が活躍できる雇用環境に関しても、現実的課題が何なのかをもっと知る必要がある。また、フリーターやニートの増加についても、未だ抜本的な解決策は打ち出されておらず、非常に深刻な問題となっている。

青年経済人である私たちはこれらの問題を直視し、実社会で生きる私たちであるからこそ何かできることがあるはずだと考えるべきである。

そうした課題を個別に解決していくだけではなく、大きなビジョンを描くことで発展的解消を図ることがこの名古屋ではできるはずである。例えば2027年のリニア中央新幹線開通に向けて関東と並ぶ日本国内の二大経済圏を形成していくにあたり、多くの企業そして優秀な人材がこの名古屋の地に集まるような、産学官が連携した新たなプラットフォームの形成がその一つである。

名古屋は日本のシリコンバレーを目指すべきなのだ。

【未来を彩るテクノロジー その可能性】

我々の生活をもっと便利にする。そのようなテクノロジーが、目まぐるしい発達をみせている。近年話題となっているドローンやVR（バーチャルリアリティ）での疑似体験、AI（人工知能）の発達、また多くの企業がIoTの活用を進めており、我々が今では当たり前のように手にするスマートフォンの普及も、情報環境の変化によって人と人、人と場所の距離が大幅に縮まり、生活の様式を大きく変えたものの一つである。ロボットが我々の家庭の中で生活をサポートする、そんな風景も近い将来当たり前ようになる。そして、それらのテクノロジーは産業や我々の生活だけでなく、ビジネスはもちろん伝統文化の進化や自然環境の保護等にも役立っていくものと考えられる。

しかし、それらの進歩はテクノロジー主導ではなく、我々の暮らしが主導でなければならない。人々の暮らしを豊かにし、どのようにまちづくりに役立っていくのか、その可能性を検証していきたい。

【いい会社とは】

このような時代に、この先を永く生き残る会社とはどのような会社なのだろうか。

会社にはビジネスの側面と、社会的存在意義であるミッションの側面がある。「会社が会社を存続するためだけにある」のではあまりにも寂しい。

近年「ブラック企業」という言葉が世間を騒がしていたが、顧客にとっても、働き手にとってもその会社の人間性というものが気になるところではないだろうか。そして、それは社員の働きがいにもつながる。

ビジネスとミッションの両立を図る、その価値観を見出していくことがこれからの会社のあり方として必要ではないだろうか。

また、労務管理、マーケティングといった様々なビジネスシーンにおいて「心」というものが存在するならば、それを心理学等の学術的な面から紐解くことで物心両面の幸福を追求することができないだろうか、今までとは違った角度から踏み込んでいきたいと思う。

【爆発する人間力の探求】

近年人の魅力を語るとき、しばしば人間力という言葉を目にする。

その内容は多岐に分かれるが、自立した一人の人間として力強く生きていく力のことと定義されている。自分自身の表現に長けているとか、対人能力に優れている、人間的魅力に溢れている人のことをそういうのであろう。なぜか愛される、そんな人があなたの身近にもいると思う。それらは、あらゆる人生での経験に裏付けされ、培われてきたその人の本質的なものである。信念や志、人として貫き通してきた生き方に通じるものとも言えるであろう。

人は社会で生きていく上で、人と接することを避けることはできない。その中にはストレスに感じることや争いごとに発展することも少なくはないだろう。青年会議所で活動する上でも必要なもの、それは人間力そのものではないだろうか。そして、青年会議所は人間を磨くところでもある。決して馴れ合いの調和を求めているところではない。そして、人間同士がぶつかり合いながら切磋琢磨していくことでこそ人間力は養われていく。

我々は青年である。人としてはまだまだ未熟である。滾る人間力を爆発させ、刺激的で感動的な人生の時間を共有していこう。

【子供の未来を応援する】

スマートフォンやインターネットが当たり前のように普及する現代では、様々な情報を大人はもちろん子供たちですらも入手することが容易となった一方、多くの情報が交錯する中で何が正しいものなのかを判断することが困難となっている。そして、そこには個人の生き方をも左右するような危険が潜んでいる。

子供たちの素直な心と柔軟な思考力を大切に、自立した魅力的な人間に育つように、大人たちは子供たちの未来を応援する。そんなのびのびとした教育環境によって、子供たちの知的好奇心を刺激し、想像力（イマジネーション）と、創造力（クリエイティブ）を育む取り組みを推進していきたい。

名古屋青年会議所が長年に亘り開催してきた「わんぱく相撲名古屋場所」は子供たちに

礼節を重んじる心や、相手に敬意を払い、思いやる心を育んできた。各地域で開催されるようになり、地域住民とのつながりも強くなり、多くの人々に認知されるようにもなった。この事業をさらに進化させることは大変意義深いことであると考えている。

また、2020年のFIFAフットサルワールドカップに愛知県が開催候補地として正式に立候補した。これは日本初開催のビッグイベントであり、愛知、名古屋から世界に発信できるスポーツとして、官民一体となってアピールしていく必要がある。

さらに、リニア中央新幹線開通に合わせ、アジア競技大会が愛知県と名古屋市の共同開催という形で行われることが決定したが、これらを意識し、開催された事業に参加した子供の中から、将来世界に羽ばたくような人材が現れたら、それは壮大な夢ではないかと思う。

【人生を豊かにするために】

私の趣味は釣りである。まだ歴は浅いが、その魅力に深く惹かれている。多少前向きな解釈かもしれないが、釣りは仕事にも役立つという話がある。自然という常に移り変わる状況下で、あるターゲットに対してどのような手法を用いれば最良なのかを考えトライする。しかし、それでもうまくいかない時、臨機応変にその手段を変え、粘り強く立ち向かう。何度もトライ&エラーを繰り返し、自身で答えを導き出す。そして、ようやく手にした獲物に対するアフターフォローをも考えている。

これは釣りだけに言えることではないかも知れないが、例えばスポーツをすれば心身が鍛えられ、登山で山頂に到達した時はその景色に感動する。絵画の鑑賞は心を豊かにし、料理をすれば人に喜んでもらうこともできる。さらに仲間や家族とも共有することで絆が深まる。新たなコミュニティを生み出すこともできる。趣味というのは人生を豊かにすると共に、人間の幅を拡げてくれるものである。つまりは「生涯学習」と捉えることができる。

改正教育基本法の定義によると、生涯学習とは「国民一人ひとりが、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。」とある。

人々の自発的な好奇心や探究心が、生涯を通しての学びの原動力となり、新たな価値観とライフスタイルがより良い人生、そして輝かしい社会の未来の構築に役立つ、そのような素晴らしい連鎖反応が生まれるような取り組みを推進していきたい。

人生を生きる達人とは仕事と遊びを区別しない。

【誇りある組織であるために】

日本有数のビッグLOMである名古屋青年会議所だからこそ、対外活動における信念や志が問われるものと考え。名古屋の活動は名古屋だけにとどまらない。日本青年会議所との連動に関して、LOMの価値を最大限に高め、我々の存在感を全国に示していこう。

しかし、我々がいかに信念を持って活動をしようとも社会に正しく伝わらなければ意味がない。名古屋青年会議所は終戦間もない1950年、焦土が残る時代に、志高き青年たちによって設立された団体である。本来は自分のことで精一杯な時代に、世のため人のためのことを考え、意を決し立ち上がった勇気ある青年の集まりなのだ。

皆さんは、「青年会議所とはどのような団体か」と問われた時に、「自分を磨き、この社会をより良くするために活動している団体です」と、胸を張って言えるだろうか。我々は誇りあるJAYCEEである。我々の活動を広く正しく対内外に発信し、社会からの認知と共感を高めることも重要な使命だと考える。そして、名古屋青年会議所も人の集合体であり、組織であることを踏まえると運営について触れないわけにはいかないであろう。時間やルールを守る。報告・連絡・相談を当たり前に行う。これらは一見、些細で当たり前と思うことの類である。

しかし、組織を運営する我々にとって一番大事なことは、こうした些細なことを疎かにしないこと。平凡に見えることも積み重ねれば、非凡に通じるのである。私はこの精神で紡がれてきた伝統と進化が今日の名古屋青年会議所の透明性や公益性などの土台を作ってきたと感じる。我々の誇りある運営が、会員の力を最大限引き出し、魅力溢れる運動の発信を実現するのである。

【会員拡大について】

我々の運動を市民に広げていくためには当然のことながら会員数が多い方が有利である。しかし、ただ単純に頭数が揃えば良いというものではない。価値観を共有した「チーム」として機能することが必要である。

名古屋青年会議所のように多数の会員数を誇る団体が一つのチームとなるためには果たして何が重要なのであろうか。私がイメージするのは、それぞれがチームとしての確固たる信念を身につけた集団の姿である。

人の考え方はまさに十人十色だ。しかし、各々が己の考えのみを基軸に置いて行動してしまえば、どんなに有能な人々の集まりでもチーム力は発揮できないだろう。

青年会議所は40歳という年齢で卒業であることから、いつの年度においても若さに満ち溢れた組織であり続けることができる。そして、そんな成熟しきらない青年たちの、失敗を恐れず積極果敢に挑戦する力を結集したときの美しい姿を見てみたくはないだろうか。

今一度、我々は何故この組織に集ったのか、その意義を深く心に刻み、自身を、そしてこの組織を見つめ直してみよう。

矛盾することを言うようだが、人材の多様性がなければ青年会議所の活動にダイナミズムは生まれない。我々の理念に賛同し勇気を持って行動できる人間に入会いただきたいのはもちろんだが、個性を殺してもらっては様々な人間がいる意味がない。

会員の多様性を維持しながらチーム力を発揮する。この難しい取り組みを成功させることこそ、リーダーに求められる条件だと信じている。

議論してぶつかり合いながら、この人生の貴重な時間を共有し、さらなる高みに一緒に登っていこうではないか。

【自他一如】

自分と他者は対立する別個の存在として捉えられている。

しかし、それらは本来つながっているものではないだろうか。

過去があるから現在があり、未来がある。原因があるから結果がある。自分が何かを成

し遂げた時、成長した時に一緒に喜んでくれる仲間や家族がいる。

人が自分一人の力だけで何かを成し遂げること、実社会で生きる我々にとってそのようなことはまずないであろう。そこには「自分と他者は一つ」という言葉を越えた感覚的なものが存在するのである。

人は必ず分かりあえる。臆することは何もない。

私も皆と手を携えてさらなる一步を踏み出し、その先に新たな価値観を創造していけることを、心から嬉しく、そして誇らしく思う。

——青春とは心の若さである。

信念と希望に溢れ、勇気に満ちて、日に新たな活動を続けるかぎり、
青春は永遠にその人のものである。 （松下幸之助）

青春の無謀さや大胆さは十代だけの特権ではない。我々は青年会議所の活動の中で、まだまだ青春を謳歌していけるはずだ。

あなたの勇気ある行動による成長と、その先にある新たな価値観への変化があなた自身の人生を豊かにし、いずれはこの社会を輝かしい未来へと導くのだ。

